



生活協同組合コープさっぽろの 組合員活動との出会い



生活協同組合コープさっぽろ
組合員活動委員会委員長 **吉田千恵**

みなさん、こんにちは。コープさっぽろで組合員活動をしている吉田千恵です。これから四回にわたり、このコーナーを担当させていただくことになりました。

コープは知っているけど、組合員活動ってなに？とお思いの方、きつというっしやることと思います。真面目で、楽しい、私たちの日々の活動や取組みを紹介していきたいと思えます。どうぞ宜しくお願ひいたします。

農業の大変さを知った子供の頃

まずは自己紹介。私は、宮城県の南部、農村地域では珍しいサラリーマン家庭（両親ともに農協職員）に生まれました。家業がなくとも「家督を継ぐ」という慣習がまだ残る地域で、一人っ子の私は幼いころから「お嬢さんをもって家を継ぐんだよ」と、周囲に言われながらすくすくと育ちました。



父の実家は、祖父母・伯父夫婦とその息子の三世代で米ときゅうりを生産する大きな農家でした。母屋の離れに竈、五右衛門風呂、トイレがある昔ながらの家の作りで、泊まりにいくと従姉弟たちと薪でお風呂を沸かし、一緒に五右衛門風呂に入る。朝は早起きして祖母と鶏小屋に卵を取りに行き、そのあとは家族の一員としてきゅうりの箱詰め作業を手伝うという日常でした。私の仕事は、段ボールの組み立て、きゅうりのサイズと生産者名のハンコを押すこと。箱詰め作業が終わった段ボールをトラックの荷台に積

み込み、農協への出荷にもついていきました。小学生の私にも役割があり、「人の役に立つ」という事実が嬉しかった記憶があります。

もう一つの農作物は「米」。「米どころ宮城」でのその頃の主な品種はササニシキでした。大きなトラクターなど機械も揃っていましたが、区画整理が整っておらず機械が入れない隅の田植えや稲刈りは手作業。稲刈り後は稲架けもあり親戚総出の作業でした。

米作りは、八十八の手間がかかると言われていきます。毎日朝夕の田んぼの見回り、水の調整など、どんなに手をかけても梅雨の時期になると「いもち病」の発生や日照不足、冷害、台風等、病気や天候により収穫量と収入に大きな影響が出てしまう。米作りって大変なんだと子どもながらに感じていました。

また、その時代は農業の空中散布が行われていました。間近でヘリコプターな

どを見る機会がない私には一年に一度の楽しみでもあり、ヘリコプターに同乗する父の姿が眩しくもある一日でした。

農村地域で育った私ですが、「きゅうりとササニシキ」以外、農業に触れる機会がほとんどないままに一八年間を過ごし、二年間だけの約束で札幌の短大（保育科）へ進学しました。卒業後は、札幌で幼稚園教諭として勤務し、その後「お嬢さん」はもらわずに札幌で「お嫁さん」になり、二人の男の子（双子）の母となりました。

子育てと家庭と活動と

子どもが小学生になり、少し自分の時間が持てるようになりました。何かしたいと、うずうずしていた時に目に飛び込んできたのが宅配のチラシの中に折り込まれていた「コープさっぽろ子育てひろばスタッフ募集！」のチラシでした。し

かし、いざとなると、なかなか一步を踏み出せず、問い合わせの電話をしたのはだいぶ後になってからで、すでにスタッフは決まった後でした。しばらくの間は募集がないだろうと諦めていた頃に、改めて「子育てスタッフをやってみませんか？」とお電話をいただき、晴れて子育てスタッフとしてデビューしたのです。

子育てスタッフとして一年が過ぎた頃、今度は組合員活動委員会へのお誘いがありました。「組合員活動って、何をするのですか？」の質問に、「いろいろあつて説明しきれないの(笑)」との回答。仕事ではなく、ボランティア。でも謝礼があつて、子どものことを優先してOK。週に数回で平日の午前中に活動。こんな条件で謝礼も交通費も出る、その場にいる方みんなが「楽しいよ！一緒にやろう！」と笑顔で声をかけてくれる、怪しい、これは怪しいと思いつつ、最後は「コープだから大丈夫かな。嫌ならやめればいい！」

という気持ちで委員会に仲間入りしました。

子どもたちが登校した後に活動拠点に行き、下校時には家にいることが出来る。子どもが病気の時や学校行事の時は都合をつけることが出来たので、子育て・家庭との両立が可能な有難い環境でした。

組合員活動委員会

生協とは、消費者一人ひとりが自分たちのより良い暮らしをめざして、自ら資金（出資金）を出し合い、みんなで運営しながら、くらしを向上させていく消費者自身の組織です。

「出資」して組合員になり、店舗・宅配等を「利用」、意見や要望が事業や商品開発、組合員活動に反映され、「運営」に参加することが出来ます。組合員自身が企画し、協力して「運営」するのが組合員活動です。

現在コープさっぽろ組合員活動委員会には、約一〇名の活動委員（エリア委員）があり、全道一一の地区（函館・室蘭・苫小牧・南空知・札幌西・札幌東・小樽・旭川・帯広・北見・釧路）で商品・食・子育て・福祉・平和・環境・家計・防災など、その時々での社会の出来事やくらしの関心事をテーマに活動しています。

各地区それぞれに地区委員長一名と全道区（全道に関わる）三名の計一四名が在席し、コープさっぽろの理事を兼任しながら、行政や他団体等とつながるなど、消費者団体の代表として社会的な役割も担っています。

活動委員（エリア委員）は、組合員であり、コープさっぽろの職員でもパート

でもない有償ボランティアです。



コープさっぽろ
組合員活動委員会

組合員活動って？

- ・商品、食、子育て、福祉、環境、家計、防災などその時々での社会の出来事やくらしの関心事をテーマに、コープさっぽろの組合員が自ら企画し、協力して運営する活動のこと。
- ・災害時には仮設住宅訪問や緊急募金なども実施しています。

COOP
お隣り合おせはこちろ

委員の多くが三〇代〜五〇代と年齢に幅があることから、子どもや家庭の都合に合わせてお互いをカバール、助け合うことが出来ます。活動を始めるきっかけ、経歴、

年齢もさまざまで、多才な特技と趣味を持つ委員が活躍する組合員活動委員会です。これは余談ですが、PTAなど学校の役員をやっている確率が高いのも特徴です。

どんな活動をしているの？

委員だけでなく、組合員さんと一緒に「食」と「暮らし」について学び、活動に参加していただく機会を作っています。

「食の安全・安心」

- 学習会（食品添加物・自主基準・ゲノム編集・GM（遺伝子組換え）・アニマルウェルフェア・商品）
- 生産者、産地交流（農業体験・農作業支援など産地でこだわりを学ぶ取組み）
- ラブコップキャンペーン（商品学習と商品お知らせ）
- 食の提案（おさかな教室、調理）



生産者交流【バス見学：収穫体験】

● 食べる・たいせつフェスティバル（食や環境について学びを深める体験の場）

「V.I.T.J」

- 平和活動（道内の中・高校生をヒロシマ・ナガサキへ派遣／報告会・戦跡調べ）
- ユニセフ（募金活動、国際支援）
- 福祉（認知症学習会、ゆる元体操、ふれあいサロン開催）
- 家計（福祉灯油要請、消費問題学習会）



私たち「ゆる元」指導者です！ゆるゆるやれる元気アップ体操で、頭と体を使って健康寿命アップ！

- 環境（森づくり、海のクリーンアップ、マイボトル宣言など）
- 子育て支援（子育てひろば、イベント企画）
- 防災減災災害支援

「コロナ禍で活動のピンチ！ からのチャンス！」

集まって活動することが当たり前だった組合員活動が、できなくなったコロナ禍。これは大ピンチでした。活動が出来なくなる「活動停止」の危機でした。

このピンチにいち早く動いてくれたのは、私たちの活動をフォローしてくださる職員さんでした。私たち主婦には無縁なものだと思っていたオンラインの活用を始めたのです。当初は会議が主でしたが、徐々に学習会や交流会の実施、更にはメーカーさんや生産者さんをつないでオンライン学習会、昨年は海外とつな



2023年度 全道組合員活動委員交流会
(ハイブリッド開催)

いで学習会も行いました。

また、活動委員全員にタブレットが貸与されたことで、更に活動の幅が広がり、作業効率の改善にもつながりました。

吉田千恵さん

1966年宮城県生まれ。
札幌の短大(保育科)卒業後、幼稚園勤務。子どもの小学校入学を機に、コープさっぽろで組合員活動を始める。
2021年から北海道食の安全・安心委員会副会長。
夫・双子の息子・実母・猫のジミーの5人と1匹家族です。



一回目の今回は、普通の主婦の自己紹介とたまたま目にした募集チラシにより、怪しいと疑いつつ「活動」へ足を踏み入れた話。そして「組合員活動」についてお話させていただきました。少しでも、関心を持っていただければ嬉しいです。
次回は、いよいよ「活動」についてお話ししていきたいと思えます。それではこれから一年間、どうぞ宜しくお願いたします。